

様式（第8条関係）

審 議 結 果

次の審議会を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和元年度 益田市男女共同参画審議会
開催日時	令和元年 11 月 8 日（金）13 時 30 分から 15 時 30 分
開催場所	益田市 市民学習センター 202 会議室
出席者及び欠席者	○出席者 <b>【審議会委員】</b> 片岡委員(会長)、羽柴委員(副会長)、吉松委員、宮坂委員、篠原委員、出雲委員、増野委員、野村委員、澤江委員 9 名 <b>【関係課】</b> 齋藤健康子育て推進監（子ども家庭支援課長）、田原人口拡大課長補佐、長嶺人事課長、桂木危機管理課長、水津子ども福祉課長補佐、山本健康増進課長、桐木福祉総務課長、城市障がい者福祉課主幹、山下高齢者福祉課長、産業支援センター上原副主任主事、椋木農林水産課長、松崎美都総合支所地域振興課長、田原学校教育課長、大畑社会教育課長、同中島課長補佐、高森教育総務課係長 齋藤子育て支援センター長 17 名 <b>【事務局】</b> 石川福祉環境部長、石田人権センター館長、加藤主幹、佐伯副主任主事、大石指導職員 5 名 ○欠席者 篠原知子委員、佐伯紀和委員、小川律子委員 3 名
議題	① 平成 30 年度事業実績及び進捗評価について ② 令和元年度事業計画について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0 名

経過

1 開会	
2 あいさつ	
事務局	会議の成立の報告 委員 12 名中 9 名の出席。規則第 7 条第 2 項に基づき本会議が成立
部長	国の動きでは、昨年 5 月、社会の対等な構成員である男女が政策の立案・決定に共同して参加する民主政治の発展に寄与することを目的に政治分野における男女共同参画の推進に関する法律が公布施行された。益田市では、男女共同参画社会基本法に基づき、平成 13 年に「益田市男女共同参画計画」を策定し、平成 18 年の改定を経て平成 23 年に第 2 次計画を策定。平成 26 年 3 月には「益田市男

	<p>女共同参画推進条例」を制定。平成 28 年 3 月、現計画である第 3 次計画を策定した。この計画は「男女の人権の尊重」「安心・安全な暮らしの実現」「あらゆる分野における女性の活躍」「男女共同参画社会の実現に向けた環境整備」の 4 つの基本目標を掲げ、基本施策を軸に具体的な取組を進めている。</p> <p>本日の審議会で、益田市の男女共同参画のまちづくりの推進のため皆様の忌憚のないご意見をお願いしたい。</p>
<b>3 委員交代について(任期途中)</b>	
事務局	4 名の交代があった。任期は残任期間となる。
<b>4 自己紹介</b>	
事務局	会議録・審議会委員名簿等のホームページ掲載の承諾
<b>5 議事</b>	
	<p>①平成 30 年度事業実績及び進捗評価について</p> <p>② 令和元年度事業計画について</p>
会 長	基本目標 I 基本施策 1 (1)～(4)について
委 員	項目 3 の評価・課題のところで○が 2 つあり、それぞれ「効果的である」と語尾にあるが、効果があったのかなかったのかその評価が知りたい。
担当課	「効果的であった」とご理解いただきたい。
委 員	どのような効果があったか、具体的な効果が知りたい。
担当課	まずは、教職員が男女共同参画について研修し、自分としてが意識する中で、子どもたちが意識を持つことに繋がっていったと考えている。
委 員	検証方法は具体的にどのようにされたのか。
担当課	目に見える形では検証はしていないが、男の子だから、女の子だからということは、教育においては減ってきていると感じている。
会 長	研修会実施により効果があったということの関連性を明確に説明してほしいとの質問ということでした。
委 員	項目 5 の「益田版カタリ場」の活動での、講師の男女比はどうなっているか。
担当課	資料を持参し、後ほど回答したい。
委 員	それにより、社会に出たときの男女共同参画に対する子どもたちの意識も変わると思った。
担当課	主たる目的は、まずは地元で頑張っている「ロールモデル」に出会うこと。今現在若い方、色々な面で努力されている方に出会うことで、子どもたち自身、真の生き方について今後の方向性を持ち、益田で頑張りたいという気持ちを培うことになる。また、アンケートの結果から子どもたちはいい影響を受けているといえる。「益田に魅力的な大人がいると思っている」が半分を切っていたが、事後は約 8 割に上がっている。多様な生き方を学ぶ機会になっていると認識している。
委 員	共働き世帯は島根県が全国で上位。子どもたちが社会に出たとき、どういう形になっていけばいいのかということに興味があった。
会 長	「カタリ場」には、関心を持っていた。益田でいろいろな生き方をしている方を

	「ロールモデル」としている「カタリ場」。「カタリ場」では、互いの意見を交換もなされている。こういうことを進めていくことで「男女共同参画」が進んでいくと思う。
会 長	基本目標Ⅱ 基本施策2 (1)～(3)について
委 員	項目10の女性相談件数について、前年度に比べての増減、内容についてどうか。
担当課	女性相談は、一人の方に複数回関わると延べ件数は増え、延べ件数では、30年度33件、29年度30件、28年度は36件と年により様々。実質人数は10～15名位。昨年度は、夫等からの暴力が14件、交際相手から6件。その他、DV以外にも夫婦間や、生活面で非常に苦しいこと、高齢者や、男性の相談もある。高齢の方には、高齢者福祉課、包括支援センターとも協力し対応している。
会 長	1回の相談では解決せず、何回かやり取りをしながら前に進む状況のようだ。DVの相談もあり、被害者の方が安心して安全な暮らしができるようよろしくお願いしたい。
副会長	項目9「若年層への意識啓発」の評価・課題に、「各中学校内において、デートDVの未然防止への取組を実施できるよう教職員への研修会を実施した」とあり、実績に1月11日に受講者9名とある。各中学校に持ち帰り、フィードバックし活かしたのか。
担当課	参加者の学校内での取組については未確認。今年度も引き続き、「デートDV」について学校内の取組に繋がるよう、先生方を対象に研修会を行う予定。
副会長	評価・課題の4行目、学校内の取組に活かす指導はいいことだ。指導があった上で、時期が遅いという意見があったのか。
担当課	以前は、民間の方が講師として各学校に出かけ、劇を通し直接生徒に理解を求める活動をしていた。しかし、その方が引退。H30年度の研修講師が見つからず、外部講師の形ではなく、「デートDV」について先生方に校内での取組をお願ひする目的で急遽1月に県の青少年家庭課に研修を依頼した。校内で研修内容を伝達し取組を継続していただきたい。しかしながら、1回の受講では難しく、理解をもらうには2～3年は研修機会が必要と考え、令和元年度も研修を計画。令和2年度も同様の研修を行い、3年位を通して研修を深める。現在取組の最中である。
副会長	学校に持ち帰りフィールドバックするには、なるべく早いうちでの研修計画が望ましい。早めの対応をお願いしたい。
委 員	何年間かの計画があるのか。
担当課	長年実施してきた、民間講師レベルには一度には研修の中身が追いつかない。3年くらいの計画でというのが思いである。
委 員	一つの研修で、DV防止のオールマイティの指導ができるとは限らない。あらゆる計画に入れていくとよい。研修参加の状況は把握されているのか。
担当課	個の研修は個の研修で行う。理解度は意見交換をしながら先生方に確認できるが、これ以外にも大勢の人を集めた研修も行っていかなければならない。
委 員	学校体制の問題だと思う。学校現場の実態はどうか。

会 長	男女共同参画の推進の観点から生徒や児童に指導していくための研修や、先生方が学ぶ研修は色々あるのか。
委 員	小学校では、可能な範囲で積極的に参加しているが、複数参加は難しい。校内共有方法は学校規模で異なり、男女共同参画の研修のみにはならないが、各学校で工夫している。少なくとも管理職は受講している。人権テーマの職員会議も義務付けられ、研修報告、文書回覧など、全体への浸透を工夫している。人権啓発は本質的な課題として浸透している。小学校の場合公開授業も実施。保護者の参加をいただき、学校通信で報告をしている。家庭科の授業で家族間のことなど、教科の特質を生かしながら行っている。
会 長	学校も、児童も先生も忙しい中、男女共同参画の取組を行っていることがわかった。是非継続していただきたい。「デートDV」に関しては、民間ボランティアの講師が辞され、以後学校の先生方での実施継続を目的に研修を行った。年に1度の研修では、レベルが追いつかないので、長い目で養成していく流れであり、継続して、講師を育てていただきたい。
担当課	「カタリ場」回答；先ほどの件、次回「カタリ場」の高校で70名弱の内、男子が31名、女子が37名で女性が多い。年間を通すと半々である。
会 長	基本施策3 (1)、(2) についての意見交換
委 員	項目13の評価・課題で、「家庭、地域との連携を推進し、保護者や地域の理解を十分に得ることが重要である」とある。その評価と課題を教えてください。
担当課	男女分け隔てなくしていかなければならないということを学校でも伝えていくし、保護者や地域の方も一緒になりご指導いただければと考えている。まだ道半ばであり、こういう形で書かせてもらった。
委 員	その記載があればわかりやすい。取り組んでいることを書いてほしい。
担当課	今後はわかりやすい書き方にしたい。
委 員	項目14の事業計画で、男性をターゲットにしている理由を知りたい。
担当課	地域の健康教室の参加者は女性が多い、男性にも参加してもらえる教室内容での計画を掲げている。
委 員	解りました。
委 員	項目15の事業実績の㊸で男性の参加がどのくらいか。
担当課	母親と子どもが主で、父親の参加は中々難しい。集団健診に父親が来ることは少ない。母親教室の「ハロー！ベビー・ハッピー講座」は、最近では夫婦での参加がある。おもいをお腹に付けての妊婦体験。先輩の母親や子どもの協力で、実際に赤ちゃんを抱っこしてもらって父親の体験にもなっている。母親・父親が一緒になって育てていくという意識付けとして父親の参加が得られる計画をしたい。
会 長	項目15について、市では以前から、切れ目のない妊娠・出産・子育てという育児支援に早くから取り組んでおり、感服しているが、「切れ目のない支援」の効果を具体的に教えてください。
担当課	現在、国が「子育て世帯包括支援センター」が役割を担うということで力を入れている。令和2年度中にはすべての自治体にセンターを配置する方向性も出し

	<p>ている。益田市は昨年10月センターを立ち上げ、切れ目のない支援の取組をしている。センターに専任の「母子保健コーディネーター」を1人配置した。地区担当、検診担当と一緒にあって関わり、非常にきめ細かく丁寧に、フォローができつつある。益田市はお産ができるのが赤十字病院のみである。相談員が気になる場合、市に連絡を入れ妊娠中の早いうちから、連絡票が来る。多い時には妊娠届の半分くらい連絡がある。早期の関わりにより、見守りですむケースもある。切れ目のない支援を意識して積極的に取り組んでいる</p>
会 長	<p>DVや児童虐待の防止にも繋がってくると思うので、益田モデルを作り上げる気合でやっていただければと思う。</p>
委 員	<p>今よく使われる「イクメン」の取組はないと思うが、取組の予定はあるのか。実際行政サイドでどのくらい取得しているのか。</p>
担当課	<p>国等から情報提供はあり、健診時に周知はしているが、市として取り組んでいるとは言えない。今後意見を参考に取組んでいきたい。</p>
委 員	<p>報道で県職員も含めて、1%か2%の取得率だと聞いたが、実際はどうか。</p>
会 長	<p>人事の担当課の方お願いしたい。</p>
担当課	<p>市の男性職員育児休業取得率は、29年度は対象は0。28年度は25%。今年度は現時点で男性職員が育児休業を取得している事例もあるし、今後取りたいという話もある。市の仕事を一旦おいての育児休業は、民間も同様と思うが、給料もストップする。このことで、なかなか浸透しないのでは。配偶者に子どもが生まれた時には、出産のための補助の休暇という有給休暇を設けているが、男性職員は100%取得している。</p>
委 員	<p>補助と実際に育休を取るのはどう違うのか。給料の違いがあるのか。</p>
担当課	<p>育児休業は、長い短いはあるが、出産後、産後休暇を除いた1歳になるまで仕事を一定程度止め休んで育児をするので、給料はストップする。定年時、育休で休んだ期間は退職金の算定からは除外される。トータルでは大変な状況になる。</p>
委 員	<p>たくさん子どもをとっているが、育児休業を重ねれば逆に、収入は少なくなるということですね。</p>
担当課	<p>子育て、少子高齢化対策は、全体的な制度はまだまだできていないのが実態。</p>
委 員	<p>消費税が10%になったら、福祉関係を充実するということだったが、個に対しては対応しきれていないということですね。</p>
担当課	<p>育児休業の取得を奨励する際、給料面は大きな問題である。市だけでなく民間企業も含めて、国の制度は追いついていない。</p>
会 長	<p>働き方改革が口だけのものにならないように、子育てしながら仕事もして、収入も確保できるようサポートされ、全体社会に関わっていくようお願いしたい。</p>
委 員	<p>17項目の事業実績の「自立支援教育訓練給付金」とはどういうものか。</p>
担当課	<p>ひとり親家庭の親が、雇用保険の教育訓練給付の対象になる講座等を受講した際にかかる費用を補助するものである。</p>
委 員	<p>その申請がないということか。毎年あまりないものなのか。</p>
担当課	<p>3年前に1人あった。今年度1件相談を受けている。</p>

委員	事業を行い、就職活動を行って、ひとり親家庭の就職率が上がったとか、児童扶養手当の受給者の人数把握ができるものなのか。
担当課	就労支援はハローワークと連携し、ひとり親家庭の親の自立に向けて繋いでいる。ひとり親家庭は増加傾向にあり、児童扶養手当の支給は年々増えている。
委員	制度が設けられた以上、わかりやすく、申請しやすいものがよい。
担当課	広報等で周知しているが、引き続き支援していく。
委員	項目 16 の評価・課題の機能強化の「包括支援センターの質の向上を目指すことが必要」とあるが、質の向上とはどういうものか。
担当課	市が統括して行っていた包括支援センター業務を東部・中部地域は益田医師会病院、西部地域は梅寿会へ委託した。3 専門職、主任ケアマネージャー、保健師、社会福祉士を配置して、より専門的に、身近なところで相談が受けられる体制作りということで委託したが、委託先が今まで相談業務に関わっていなかったこともあり、相談者に寄り添った形で丁寧に対応できるよう、専門職を含めて質の向上を高めていく必要がある。
委員	項目 22 の実績で女性の登用率は上がっている。健康増進課はほとんど女性だが、市の専門職の受験者に栄養士・保健師の資格を有する男性はいるのか。
担当課	健康増進課は、保健師・栄養士はたくさんいるが男性はいない。女性の土木技師は 2 名、男性の社会福祉士はいるが、保健師はいない。
委員	栄養士もいない。
担当課	はい。
委員	男女共同参画の観点から、子どもの成長・発達等を考えた場合、男女のバランスは必要なことだと思う。健康増進課の仕事は、女性が好ましいのかもしれないが、男性が入っていないことを情けなく思う。今後の健康増進を図っていく上で、男性が担うべきポジション・役目はあると思うが、見通しはあるのか。
担当課	保健師は県で一人男性職員がいる。益田市では男性の応募がほぼない。今年度は若干応募はあるが、男性を優先することは難しい。男性の応募は年々増えている。土木技師の女性採用もあり、全体的に変わっていく傾向にはある。
会長	子どものころからキャリア教育が進んでいるが、ケアするのは女性、土木は男性と決めつけず、子どものころから提供してほしい。
事務局	情報提供；今日配付している「ひとりひとりが幸せな社会のために」という冊子の 06 の②専攻分野別に見た学生（学部）の男女割合で理学・工学分野における女子学生比率は少なく、専攻分野別に男女の偏りが見られる。全国的にもそういう傾向があるようだ。
委員	項目 25 の事業実績に「各地区での会議などの機会を活用し、女性参画の重要性、必要性について啓発を行った」とあるが、どのような啓発を行ったのか。
担当課	チラシなどではなく、地域の会議等に参画して、女性を含めた参画について啓発を行った。
委員	活動回数 126 回、延べ参加人数：子ども 747 人、大人 2,302 人で、去年は 172 回、子ども 1,370 人、大人 2,642 人で、随分減っているが、要因は何か。

担当課	別資料により、時間内にお答えする。
委員	項目 29 事業実績、「益田子育て応援宣言企業登録数」が 22 社で、昨年より 2 倍近く増えて、啓発の効果が数字から見えて嬉しかった。
会長	感想ということで。子ども福祉課の方がいかがでしょうか。
担当課	ありがとうございます。今年度も、各企業にお願いする計画。引き続き子育てを応援していただけるよう努力したい。
委員	項目 33 の事業実績の活動件数が 80 件、会員数が 230 人と昨年に比べて減っているが、理由はあるのか。
担当課	前年に比べて 80 件とかなり少なくなったが、ファミリーサポートセンターは 30 分 300 円の有料。家族・友人・保育園の協力により解決したという場合もあり、数字が増えることが良いことでもない。活動も定期的ではなく、単発的なものが多かったことも要因である。
委員	項目 36 の評価・課題の昨年の資料を見ると「30 年度検討したい」と追記されていたが、今年度は削除されているが、どのように検討されたのか。
担当課	29 年度の実績を見て、比較されているのか。
委員	29 年度は、「30 年度は検討したい。」と転記されていたが、それが削除されているのは、何か検討されたのか。
担当課	後ほど、時間内に回答する。
委員	項目 40 の実績、ハザードマップの作成に当たり、女性への配慮、意見を活かすことの重要性を記載したとあるが、女性の視点が必要だと思うが、会議に女性は何人参加されたのか。
担当課	検討委員会は立ち上がっていない。課内で検討しながら業者の方と相談しながら中身について検討した。
委員	検討する中で女性の参画はなかったのか。
担当課	ハザードマップを作成する中で、検討委員会を立ち上げて、女性の意見を取り込んだものはない。
会長	職員に女性はいなかったのか。
担当課	危機管理課自体が男性職員の職場なので、家族の中では話を聞いていると思うが、職員的には全員男性である。
委員	男性が考えた女性への配慮視点ということですね。
担当課	男性だけの職場なので、男性だけの考えにはなるが、最近、災害が毎年増加しており、他市町村の記載された課題等参考にしながら検討した。
会長	女性の意見を活かすことの重要性と言うのなら、直接意見を聞いた上で進めていただきたい。
委員	男女共同参画と言いながら、企画・立案において男性だけ、女性だけのところもあり一律でないということですね。根本的なことを改め見直していくべき。
会長	おっしゃる通りだと思う。そこまで真剣に男女共同参画の意識を認識したうえで進めているか、取り組んでいるかということだと思う。何のための男女共同参画なのか今一度考えて、真剣に取り組んでいただきたい。審議会から強くお願い

	したい。
担当課	項目 36 の取組について、介護者教室やデイサービスを中心に実施。過疎地では、利用者だけでなく、家族のケアでも個別に声かけし、認知症カフェ・家族のリフレッシュへも取り組み、地域の中で取組方を工夫するよう声掛けも行っている
担当課	項目 25 回答：前年に比べて減少したのは豊川小学校に配置した社会教育コーディネーターが関わった活動実績の数字である。今年度は学校や地域の理解により、昨年以上に多様な交流や協働の機会がコーディネーター中心に創出されたことにより「繋がりから具体的な参画」へとステップアップした。コーディネーターがいなくても、地域の人で新たな活動ができていると評価している。
会 長	発展しているということですね。
担当課	市の審議会等の女性の参画率の目標最終数値を 40%に掲げている。平成 27 年度は 32.3%、平成 30 年度は 32.6%、平成 31 年度 4 月 1 日現在は 32.9%である。数値を細かく見るとばらつきはあるが、わずかながら目標に近づいている。
<p>②令和元年度事業計画について</p> <p>○第 3 次益田市男女共同参画計画&lt;令和元年度事業計画&gt;</p>	
会 長	今年度の事業について、基本的には変わっていないと思うが、昨年度の振り返りを通し、男女共同参画の視点で力を入れて欲しいところがあれば、全体を通してお考えをいただきたい。
委 員	「ますだ版カタリ場」の小・中・高の児童・生徒が参加すると思うが、地域のどいう方が参加するのか、どいう方を呼ぶのか知りたい。
担当課	高齢者、子育て世代様々の方に声かけをし、参加を得ている。地区外からの参加もあり様々な人に関わってもらっている。
委 員	誰が手を上げるのか、それとも誰かが選ぶのか。
担当課	初回はこちらからお願いしている。1 度参加された方に、再度声かけをすることもある。
委 員	「カタリ場」の開催にあたり、担当地区の公民館が呼びかけしていると思うが、昼間の開催で高齢者が多くなり、年齢層の偏りが多いと思われる。「カタリ場」の開催場所・曜日・時間等取組方法を考えていかないと発展していかないとと思う。学校スケジュールに組み入れられているのですか。
担当課	日中の平日開催になっている。
委 員	開催すればいいということではなく、バランスの取れた年齢層が参加できるような方法をとらないと発展しないし、有意義でない。
委 員	2 年前参加した時は、生徒の悩みを 1 対 1 で聞き答えたが難しかった。先日参加したら、地域の若い人が自分の体験を話していた。高齢者層が話をするよりは、若い世代に年齢層を変えていくのがよいのでは。
担当課	最初は、地域によっては年齢の偏りもあったが、スタッフの数も増え、平日開催ではあるが企業の理解もいただき仕事上の参加も得ている。いろいろな年齢層の参加ができつつある。子どもたちに益田に住んでいる間に、益田に住んでいる大人との出会いを通し、益田に帰ってもらえる「カタリ場」にしていきたい。年



	代の配慮等ご指摘のあったことに注意しながら今後も取り組んでいきたい。
委員	小学校でも実施している。3学期に進路の決まった高校生に18年間のあゆみを語ってもらうなど有意義である。最初は数校の取組から広がってきている。
会長	色々なところで地域の取組が行われることはいいことだと思う。全国的に人口の減少は深刻な問題になっている。どういう社会にしたら、ここなら幸せに生きていけると思ってもらえるのか。そのためには地域の人と話をするのはとても有意義なことだと思う。男女共同参画の問題とあわせ、いろいろな生き方、いろいろな人間が暮らしていきやすいことを実感できることが人口問題の解決には重要。何のために男女共同参画のことを行っているかという、若い人が出て行ってもまたここに戻ってくる、ここにずっと住み続けるという選択をしてもらう、この町は暮らしやすい、ここで幸せになれる、そう思ってもらうためにいろいろな取組をお願いしたい。ここに住んでいけるんだということを証明するための男女共同参画の取組の重要性を考えていただきたい。
	議事終了
<b>6.その他</b>	第4次益田市男女共同参画計画策定における市民に対する意識調査について
事務局	第3次男女共同参画計画が令和2年度までとなっており、第4次計画を令和3年3月までに作成するにあたり、市民の皆様にアンケートの実施を予定している。会長に相談役となっただき、実施に向けて進めていきたい。